

玉川上水沿い見学会 アンケートのまとめ

(1) 見学時間

- A 長い：見学会自体、必要なし。
- B ちょうどよい：1回の時間としては適当だけれども、研修できる範囲が限られてしまう。可能ならば回数を増やしてほしい。
- C ちょうどよい
- D 短い：少し短かった。説明が不十分だったかもしれない。
- E ちょうどよい

(2) 新たな発見や参考になったこと、気づいたこと

- A 境橋周辺の短い距離での植物、農地の説明お疲れ様でした。個人的には楽しかったです。多くの市民を対象とした見学会は必要だが、意識の高い委員の見学会は必ずしも必要ないです。
審議会の回数を減らしても結果は同じ。納税者の立場から言うと見学会は省略してもよいと思います。
- B 藁（ひこばえ、孫生とも書く）が老樹木に対して実際に行われていることを知った（境山野緑地）。時間の掛かる事業であるが末永く観察し、次世代、次々世代へ繋いでいってほしい。
- C 一概に桜の木と言っても、11種類あることを知ることができたことと、玉川上水にも数種類の桜があることを知ることができた。
動物や魚などの外来種が問題になっていることを報道では知っていたが、植物も外来種が在来種を脅かしていることを聞き、将来に向け対策する必要があるのではないかと感じた。一方、このままでも良いのではないか、対策が必要なのか疑問もある。
- D 農業ふれあい村での解説は、他の団体が何を実施しているのかを知ることができて良かった。いろいろな団体との意見交換をして、いろいろな考え方を聞くのもいいと思った。そういう交流の場があると良い。
- E 玉川上水沿いに珍しい植生があることと、春先にしか見ることができないものもあるなど、植物の見方が新鮮だった。

(3) 生物多様性保全においては、ヒトの視点だけではなく、すべての動植物を含め生態系全体を考える必要がある。そのような中で、住宅地を中心として形成される武蔵野市において、生物多様性保全において何が重要であると考えるか？（考え方や市の方針など）

- A 意識改革が大切。新たに人口が増えているので新しい市民を取り込む啓発活動が大切。
多くの新しい人々を市民活動に参加していくように導いていく市のリーダーシップが必要です。
- B ヒト・植物・動物（鳥、犬猫のような同伴動物、野生の動物、爬虫類などを含む）・水生生物のそれ自体の季節変動や自然のサイクルを理解することと同時にそれらの相互影響サイクルもよく理解すること。武蔵野市における現状が周囲のあるいは川の上流域からの影響も考えてみたい。
- C 植物や昆虫、川魚などの生息のバランスが崩れているのか知ることが大切だと感じた。外来種が多くなって環境が悪いとは言えないのではないか。生活環境は少しずつ変化するもので、必然的に外来種が多くなり、新しい環境に適した生き物が多くなっているのではないか。
- D まずは、市民に貴重な緑があること、そこに生き物が生息していることを知ってもらおう。
そのためには、玉川上水など緑道は、いい場所かと思う。回廊としての緑、そして、点在している緑の意

味を知ってもらおう。それがあることにより、いかに恩恵を受けているかを伝えることが大切。武蔵野市の住み良い環境がなぜ守られているか、気づいていない市民にこそ伝えるべきかと思う。

E 緑地については、公共の場所で、緑化を意図した公園などと、生態系に配慮したところなどの、いくつかの区分があると思われる。その区分ごとにどういう場所かが、わかるようになっていけばよいと思われる。一方、私有地については、元からの武蔵野の植生を推奨するなど個人の人々の選択の中に、公共の考え方を汲み取ってもらえるようにしてもよいと思われる。要は、武蔵野市がどういう緑地を将来に残していくかを明確にすればよいと考える。

また、生物多様性への配慮は、緑地にとどまらず、日々の衣食住の個々の物品がどういう背景で手元に来ているか、どういう物品を選択するかを東京五輪の機会に広げていってはどうか。

(4) 上記(3)を目指すために、どのような市の施策が必要だと思うか？

A 市民活動を呼びかける講座やワークショップ

B 生物多様性要因を一層身近に感じるようにする。玉川上水沿岸にはもっとベンチを増やす。170余の公園があるということだが、大きい公園にはブランコ、鉄棒などありきたりの遊具以外に楽しめる用具を設置する。ゲートボールのようなことが出来ると良い。夏休みにテントを張って天体観測ができるようにするのも一案ではないか？遊びながら、楽しみながら周囲の自然を理解するようにする。

C ・現状の生物の実態を掴む。

・どのようは状態が、動物、植物、そして人間にとって良い環境であるか示すことができれば良いと感じた。

D 子供だけでなく、大人にも環境教育が必要。

「水の学校」があるなら、「緑の学校」「生き物の学校」などを実施してもいいのではないか。

E 市の考え方を明確にして、周知していくこと。SDGsをどこまで位置付けるかを明確にすること。

5) 今回の実地研修全体を通して気づいた点や感想

A NPO と市役所との関係がよくわかりません。国のレベルでは団体との契約は競争入札でかなり厳しいと承知しています。武蔵野市が活用する環境 NPO の選定（ボランティアであれば問題ありません）はどの様にしてしているのか、よくわかりませんでした。毎回同じ団体が継続契約しているのであれば問題かもしれません。

B ①31日に歩いた観察区域を含めて「水の学校」で数回歩きました。それぞれ目的、視点が異なるので、そのたびに新たな発見があり、貴重な機会であると思っています。今回は植物の名前を教えてもらったことはよかったです。植物の名に詳しい人が一緒になくてもわかるような表示があるとよい。

②武蔵野市の住民となり5年目です。この5年間で小鳥が減ったように感じます。どうしたらよいか皆さんと共に考えたい。

C ・短い時間でしたが、玉川上水に生殖している植物や川魚の環境について考える機会となった。

・植物の名前や特徴を知っていると何気ない散歩道も、大切な道になるのではないかと感じた。

D 時間が短かったので、伝えきれなかったことも多かったが、事前にこのアンケートの内容を知っていれば、話の内容をもうちょっと工夫できたかもしれないので少し残念です。

E こういうツアーそのものを、団体と武蔵野市の共催で広く市民に参加してもらってはどうか。

SDGsでいえば、12つくる責任つかう責任に関連づけることが住宅地の多い武蔵野市では応用できそうに思われる。